



■第14回 日本神経麻酔・集中治療研究会

●日時：2010年4月23日（金）、24日（土）

●場所：(1) ホテルブエナビスタ 3F グランデ（4月23日）

〒390-0814 長野県松本市本庄 1-2-1 TEL. 0263-37-0111

(2) あがたの森文化会館 講堂（4月24日）

〒390-0812 長野県松本市県（あがた）3-1-1 TEL. 0263-32-1812

●テーマ：周術期の高次脳機能障害を考える

●会長：川真田 樹人（信州大学医学部 麻酔蘇生学講座）

●問合先：信州大学医学部 麻酔蘇生学講座（担当：池野 重雄）

〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1

TEL. 0263-37-2670 FAX. 0263-35-2734

E-mail: jsnacc14@shinshu-u.ac.jp

ホームページ: <http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/medicine/chair/i-masui/jsnacc.html> [日本神経麻酔・集中治療研究会ホームページ (<http://www.jsnacc.jp/>) からリンクしています。]

■ プログラム ■

ミニシンポジウム

●「術中の神経学的モニタリング」座長：森本 裕二（北海道大学）、川口 昌彦（奈良県立医科大学）

シンポジウム

●「周術期の高次脳機能障害を考える」座長：古家 仁（奈良県立医科大学）、松本 美志也（山口大学）

特別講演

●「脳神経外科手術における術中神経機能モニタリング」本郷 一博（信州大学）・座長：川真 田樹人（信州大学）

●「心脈管作動性物質による臓器保護作用とその応用」新藤 隆行（信州大学）・座長：花岡 一雄（JR 東京病院）

■ ひとこと ■

神経に関連する麻酔と集中治療領域の基礎研究、臨床研究および症例報告を中心に議論します。今回は本会場（2日目）として、あがたの森文化会館（旧制松本高校校舎）を選びました。ヒマラヤ杉に囲まれた大正時代の建物も合わせてお楽しみいただければと思います。ホームページに研究会の詳細を掲載しますので是非ご覧ください。新緑の信州松本にてお待ちしております。（池野 重雄）

■第7回 JSEPTIC セミナー

●日時：2010年4月24日（土）13:00~18:00

●場所：大日本住友製薬株式会社 東京事業所

〒110-0001 東京都台東区谷中 3-25-6

●メインテーマ：外傷

●代表世話人：藤谷 茂樹（聖マリアンナ医科大学 救急医学）

●問合先：JSEPTIC 事務局代行 [(株) コンパス内]

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-3-11 NCK ビル 5F

TEL. 03-5840-6131 FAX. 03-5840-6130 (担当：吉川、香取、濱)

●参加費：2,500 円

●申し込み方法：JSEPTIC ホームページ (URL: <http://www.jseptic.com>) 上の受付フォームにて。定員 (120 名) になり次第、締め切らせていただきます。

■ プログラム ■

●「腹部コンパートメント症候群 (ACS)、ダメージコントロール戦略 (DCS) に関して集中治療医師が知っておくべき知識」久志本 成樹（日本医科大学・高度救命救急センター）

●「画像で診る外傷の初期治療と最近のトピック」松本 純一（聖マリアンナ医科大学 救急放射線部門）

●「肉眼所見で診る外傷の初期治療と最近のトピック」松浦 謙二（沖縄県立八重山病院 外科）

●「M&M：各施設からの症例呈示と討論」

■ ひとこと ■

今回のセミナーのテーマは「外傷」です。集中治療医師として最低限知っておくべき知識を最新の知見とともに紹介します。日本ではあまり知られていない腹部コンパートメント症候群 (ACS)、ダメージコントロール戦略 (DCS) について解説します。特にダメージコントロールでは、患者の予後を大きく左右する死の三徴 (アシドーシス、凝固異常、低体温) を初期にいかにコントロールするかが重要であり、セミナーで詳しく説明します。また、外傷のプロが提示する画像診断や肉眼所見を多数供覧することで、実際に外科的処置・治療を行わない先生方にもわかりやすい構成を目指します。

今年7月に発行のIntensivist第7号 (Vol.2 No.3) の特集テーマも「外傷」です。このセミナーに参加することで理解がさらに深まるでしょう。多数の参加をお待ちしております。（藤谷 茂樹）

*「掲示板」は、学会やセミナー、新製品、同窓会、求人などの情報提供を行うコーナーです。掲載は無料ですので、E-mail、FAXなどで情報をお寄せください。その際、情報提供者からのメッセージを「ひとこと」として必ず添付してください。

なお、掲載の可否、決定、校正は編集部にご一任願います。